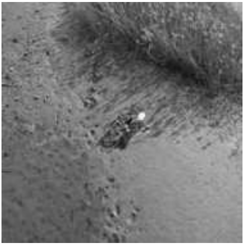
今　昔

既に水に落ちた私は、
水の底より、
落ちていく彼らを見ていた。
私は、
笑っているのか、
泣いているのか。



以前勤めた職場を失う直前、
大風の夜の後、
親を名乗る男どもが降下してきました。

南に荷を運ぶ舟は、
何故だか北の山頂に居を移し、
舟からは歳を重ね過ぎた手練れどもと
つがいのもの、根のはえたものどもが
ぼろぼろと泥に落ちました。

舟には大きな古い木が生えており、
新しい作物を植える手練れはおらず、
僅かに残った若い手練れも山頂より
南に逃げ出しました。

南には
海の向こうよりやってきた男どもと
土地の名主が新しい港を作っており、
舟より落ちた者どもと
逃げ出した手練れは、
その港に泊められた
金ぴかの舟に乗り込みました。

舟に乗った者どもは金貨の替わりに
名前を奪われ、口を閉ざしました。

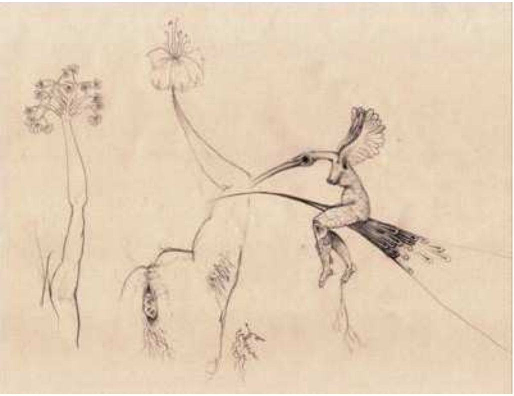
私は舟に乗りませんでしたが、
落ち方が悪かったのか、
罰を受けたのか、
手足を失って、口だけになりました。
口ばかりでなく、
手を使って物を食べたいと望みますが、
未だかないません。

私も彼らも
奇妙で、愚かで、哀れですが、
一生懸命に幸せになろうと
しているだけでした。

私は、笑っているのか。
私は、泣いているのか。

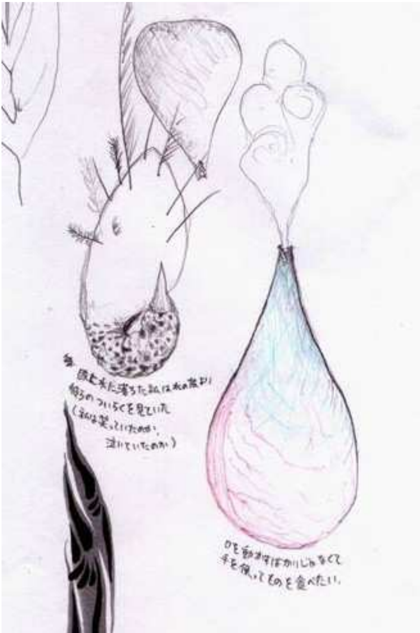
手の無い鳥

手の無い鳥が船の舳先に降下し、
泥の船を沖に誘う。
手に手に華を咲かせたものどもが
載せられている。
手に華を咲かせたものの顔は
鳥どもにより持ち去られている。
干潟の泥に根を生やしたものどもは
船に乗れずその体は２つに千切れる。
ちぎれた下腹部より新たな顔が
僅かに覗いている。

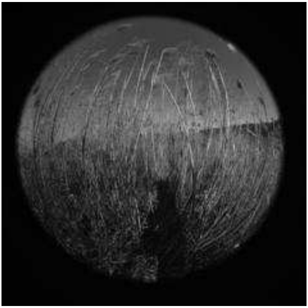
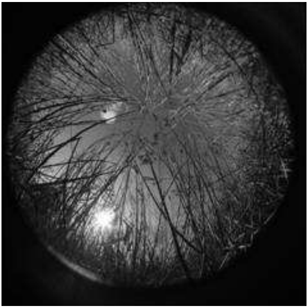
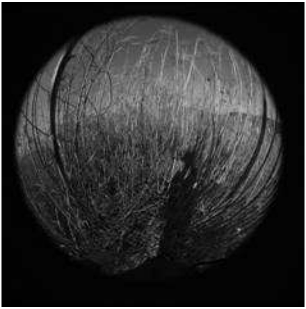


男達が降りてきた頃、四年前

口ばかりではなく、手を使って物を食べたい。



泥に落ちた頃、三年前

タイトル：　（壁面として）　本冊表紙記載
　　　　　　（作品として）　本冊２ページ記載

作者：　　　和田聡文

製作年：　　２０１３年６月

素材：

（天井近く、木の根の舟）
木の枝、木の根、タコ糸、裁縫用の糸、
冬の終わりに海岸で拾った水鳥の羽、
スプレー塗料、木工用接着剤

（上、鳥）
木の枝、タコ糸、裁縫用の糸、
冬の終わりに海岸で拾った水鳥の羽、
冬の終わりに海岸で拾った水鳥の骨、
ゴカイの巣、アクリル絵具、
木工用接着剤、ネジ類、スプレー塗料

（下、蛆虫）
樹脂パイプ、トイレットペーパー、
裁縫用の糸、百合の種子の鞘、
冬の終わりに海岸で拾った水鳥の骨、
アクリル絵具、スプレー塗料、接着剤

（床、水際）
ファルカタ材、葦、家具用ネジ、
冬の終わりに海岸で拾った水鳥の羽、
木工用接着剤、スプレー塗料